

問題 D

問 1. 以下の訓練と対象となる症状で、誤っている組み合わせを1つ選びなさい

1. 口唇・舌・頬などの運動 —— 食物が口からこぼれる
2. ブローイング —— 鼻咽腔閉鎖不全
3. pushing exercise —— 声門閉鎖不全
4. 複数回嚥下 —— 口腔・咽頭残留
5. PLP —— 認知症

問 2. VFとVEについて誤っているものを1つ選びなさい

1. VEでは嚥下の瞬間が見えない。
2. VEでは咀嚼・食塊形成の様子を見ることができる
3. VEは声門閉鎖の様子を見ることができる
4. VFでは輪状咽頭筋機能不全がVEよりもわかりやすい
5. VFは被爆する

問 3. 間接訓練でないものはどれか選びなさい

- a 体幹機能向上訓練
- b 嚥下おでこ体操
- c 体幹角度調整
- d 嚥下の意識下
- e ブローイング訓練

1.a b 2.a e 3.b c 4.c d 5.d e

問 4. 摂食・嚥下リハビリテーションについて誤っているものを選びなさい

1. 摂食・嚥下リハビリテーションと並行して取り組むべきことには口腔ケアの徹底、栄養状態を改善させること、離床を進めることがあげられる。
2. 食道入口部開大不全に対し、バルーン拡張法は有効である
3. 適切な摂食・嚥下リハビリテーションを行うためには、機能評価が重要である
4. 先行期障害の対応には、病態の見極めはあまり重要でない
5. 臥床状態が続くと喉頭挙上障害を来すことがある

問題 D

- 問 5 吹く動作(口腔気流)により鼻咽腔閉鎖に関わる神経・筋群の活性化が促進される。(対象者は鼻咽腔閉鎖不全により水分、食物が鼻腔逆流する患者)この訓練は以下のどれを説明したものか？
1. シャキア・エクササイズ
 2. ブローイング訓練
 3. プッシング・プリング訓練
 4. メンデルソン手技
 5. バンゲード法
- 問 6. 在宅診療で嚥下機能を評価する際に行われる検査を2つ選びなさい
1. Saxonテスト
 2. 嚥下造影検査
 3. スパイロメトリ
 4. 改定水飲みテスト
 5. 反復唾液嚥下テスト
- 問 7. 嚥下障害患者に対する機能評価テストで用いられる検査法のうち感度・特異度ともに最も高いものは次の検査法のうちどれか？
1. 改定水飲みテスト
 2. フードテスト
 3. 反復唾液嚥下テスト
 4. 100mL水飲みテスト
 5. 頸部聴診法
- 問 8. 嚥下造影検査について正しいのはどれか
1. 誤嚥の危険性が高い患者には高浸透圧の造影剤を用いる
 2. ベッドサイドでも施行可能である
 3. 嚥下咽頭期の観察が可能である
 4. 総義歯では外して検査を行う
 5. 入院が必要である
- 問 9. 嚥下訓練におけるアイスマッサージ法の目的はどれか
1. 咽頭の収縮
 2. 咽頭期嚥下の誘発
 3. 輪状咽頭筋の弛緩
 4. 喉頭の閉鎖
 5. 鼻咽腔の閉鎖

問題 D

問 10. 下顎を下方に引く嚥下訓練の目的として正しい組み合わせを選びなさい

- a. 喉頭挙上力の改善
- b. 咽頭収縮力の改善
- c. 気道の防御
- d. 舌根の牽引
- e. 食道入口部の収縮

- 1. a, b
- 2. a, e
- 3. b, c
- 4. c, d
- 5. d, e

問 11. 嚥下訓練開始の条件で誤っているものはどれか

- 1. むせを訴えなければ開始する
- 2. 意識が清明である
- 3. 意志の疎通が図れる
- 4. 口から食べたいという意欲がある
- 5. 自力で空咳ができる

問 12. 嚥下訓練で正しい組み合わせはどれか

- 1. /t/, /d/の構音訓練……舌による食塊移送
- 2. pusing exercise……呼吸と嚥下のリズム
- 3. /k/, /g/の構音訓練……声門閉鎖
- 4. 顎引き嚥下……口腔内圧保持
- 5. 息こらえ嚥下……相対的喉頭挙上